





( 2 )

1 小辞典一頁は一九三二字詰(原稿紙約六枚)  
 2 ウェイト(1)は四分の一頁(一枚半)  
 3 (2)は二分の一頁(一枚)  
 4 ウェイト(3)は  
 5 (4)は  
 6 句讀點は一字に數へる  
 7 本文は改行  
 8 數字はアラビア數字  
 9 譯語なき外國術語には原語

32×10  
 320

三、  
 物理學の  
 在るべき所と  
 物理學の  
 在るべき所と  
 物理學の  
 在るべき所と

經濟學小辭典原稿用紙









- 1 小辞典一頁は一九三二字詰(原稿紙約六枚)
- 2 ウェイト(1)は四分の一頁(一枚半)
- 3 (2)は二分の一頁(一枚)
- 4 ウェイト(3)は一頁(原稿紙六枚)
- 5 (4)は二頁(十二枚)
- 6 句讀點は一字に數へる
- 7 本文は改行
- 8 數字はアラビア數字
- 9 譯語なき外國術語には原語

32x10  
320

と書いておいて居る。一九〇〇年の Planck の量の以後のこの量を  
 得たものとして、物理学上の能く、最も重要な事であった。  
 量子熱輻射の電磁波のあり、物質の分布と考へられ、  
 なるが、統計力学を適用する結果は、量子力学と一致する。そこで Planck の  
 物質と輻射の間が輻射工系に於いて、輻射される過程は連続的に起る  
 のではなく、量子論の量子論の如く、量子論の工系に於いて  
 量子の数が可成り多いといふ假定を導く。この事からして、量子論とよく一  
 致する。輻射の法則は、Planck の法則の如く、Planck の法則  
 取と呼ぶ。作用の次元を、作用量と知らしめられて居る。  
 射工系に於いて、量子論の法則は、Planck の法則の如く、Planck の法則

經濟學小辭典原稿用紙

(12)

- 1 小辭典一頁は一九三二字詰(原稿紙約六枚)
- 2 ウェイト(1)は四分の一頁(一枚半)
- 3 (2)は二分の一頁(一枚)
- 4 ウェイト(3)は一頁(原稿紙六枚)
- 5 (4)は二頁(十二枚)
- 6 句讀點は一字に數へる
- 7 本文は改行
- 8 數字はアラビア數字
- 9 譯語なき外國術語には原語

32x10  
320

が電子に對する相對性波動方程式を發見し、スピンの磁氣能率及び水素スペクトルの微細構造を同様に説明し得る。次いで Heisenberg と Pauli とは電磁場は量子力學を適用することによつて、所謂量子電氣力學を建設したが、その成功の半面に於て幾多の困難を藏し、今後根本的改善が必要であると思はれる。丁方、能て量子力學の發達性により、強んとあらしめる問題が解決されて行つたのであるが、それらは結局電子(の)電磁場との相互作用に帰着する。のであつて、原子核自身に關する諸問題の最近迄強くと未解決のまま残つて居る。老原子核は元素の種類によつて異なり、永久不変であると考えられて居るが、一九一九年 Rutherford はアルファ

經濟學小辭典原稿用紙

( )

物

同封ハカキニ印通行会

320  
12  
640  
32  
3840

經濟學小辭典原稿用紙

- 1 小辭典一頁は一九三二字詰(原稿紙約六枚)
- 2 ウニ( )は四分の一頁(一枚半)
- 3 ( )は二分の一頁(一枚)
- 4 ウニト( )は一頁(原稿紙六枚)
- 5 ( )は二頁(十二枚)
- 6 句讀點は一字に數へる
- 7 本文は改行
- 8 數字はアラビア數字
- 9 譯語なき外國術語には原語

32×10  
320